

所属	経済学部	身分	准教授
氏名	松 浦 司		
NAME	Tsukasa Matsuura		

1. 研究課題

（和文） 出産意欲を使用した出生率分析

（英文） Forecasting Fertility using by Fertility Intention

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）本研究の目的は、アンケートなどで回答された「希望子ども数」などの出生意欲とその後の出生行動の関係を分析することによって、出生率の予測を行うことにある。出生意欲とその後の出生行動を分析した研究としては、Westoff and Ryder(1977)などが存在する。ただし、先行研究は、ミクロ経済学的な基礎付がないアドホックな推定である。そこで、本研究ではミクロ理論に基づき、各家計が最適であると考えられる子ども数へ現実の子ども数が収束するのかという調整速度の計測と、なぜ希望子ども数と現実の子ども数が乖離するのか、という社会経済的要因について計量分析を行なった。

それらの結果、以下の成果を出すことができた。調整速度の計測をした分析として、「希望子ども数が出生行動に与える影響」を2012年に、希望子ども数と現実子ども数の乖離に関しては、「希望子ども数の決定要因分析」を2013年に刊行した。さらに、最適子ども数の計測の別のアプローチとして、子ども数と生活満足度の関係を分析した研究として照山博司氏との共同研究「子ども数が生活満足度に与える影響」が2013年6月に刊行予定である。その他、本研究による知見を基礎にして、「人口の高齢化がマクロ経済に与える影響」を2013年内に中大出版部から刊行する予定である。

（英文）

The primary objective of this study is to investigate the relationship between fertility intention and birth behavior. The results in my studies are showed in the following.

Matsuura,T.(2012)“The Effect of desired number of children on birth behavior” *KIER Discussion Paper Series No.1201*.

Matsuura,T.(2013) “ “What are determinants of fertility intention?” *The Journal of Economics(Keizaigaku Ronsan)*

Matsuura,T and Teruyama,H.(2013) “The Effect of Number of Children on Life Satisfaction” *Dynamism of Household Behavior in Japan, Tokyo: Keio University Press.*

4. おもな発表論文等（予定を含む）

【学術論文】 （著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）
松浦司「希望子ども数が出生行動に与える影響」『KIER DP Series No.1201』、査読無
2012年4月
松浦司「希望子ども数の決定要因分析」『経済学論纂』、査読無、2013年3月
【学会発表】 （発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）
松浦司「希望子ども数が出生行動に与える影響」、人口学会、東京大学、2012年6月
松浦司「希望子ども数の決定要因分析」、人口学会東日本支部、札幌市立大学、2012年9月
松浦司「子ども数が生活満足度に与える影響」、人口学会、札幌市立大学、2013年6月（予）
（共著者：照山博司氏）
松浦司「希望子ども数が出生行動に与える影響」、経済政策学会、東京大学、2013年5月（予）
【図 書】 （著者名、出版社名、書名、刊行年）
松浦司・照山博司「子ども数が生活満足度に与える影響」『日本の家計行動のダイナミズムIX』
慶應義塾大学出版会、2013年6月（予定）
松浦司「人口の高齢化がマクロ経済に与える影響」松浦司・和田光平編『人口減少社会の人口・労働政策』中央大学出版会、2013年12月（予定）
【その他】 （知的財産権、ニュースリリース等）